

○新たに選定された「歴史の道」

戸隠道

選定箇所：善光寺～湯福神社、善光寺～静松寺、荒安～一ノ鳥居～大久保の茶屋～戸隠神社火之御子社～戸隠神社中社～戸隠神社奥社、地藏堂～戸隠神社宝光社～戸隠神社中社、種池周辺、女人結界石周辺（長野市）

概要：戸隠神社（近世までは戸隠山顕光寺）につながる道の総称である。修験者が霊場・戸隠山へ向かう道として開かれ、やがて一般大衆の参詣が増えるにつれ、複数の道筋が整備されたと考えられる。代表的な道は善光寺から戸隠神社中社までの表参道で、大きく三筋がある。主な分岐点には道標が置かれ、一ノ鳥居からは丁石も設置されている。参詣道のみならず山間の流通路としても大きな役割を果たした。



北国脇往還（善光寺道）

選定箇所：善光寺宿、丹波島宿（長野市）、稲荷山（千曲市）、猿ヶ馬場峠（千曲市・麻績村）、麻績（麻績村）、青柳宿（麻績村・筑北村）、立峠（筑北村・松本市）、会田宿、刈谷原峠（松本市）、郷原宿（塩尻市）

概要：中山道と北国街道を結ぶ輸送路で、善光寺への参詣道としても利用された。戦国時代には刈谷原、会田、青柳、麻績等で宿場が作られた。慶長19年（1614年）、松本城主の小笠原秀政によって中山道と麻績との間で宿駅制度が整備され、猿ヶ馬場峠を越えて桑原（千曲市）



や稲荷山と結ばれたことで、北国脇往還が成立した。洗馬（塩尻市）から善光寺へは約80 kmの道のりで12（間の宿を含めると17）の宿場が設けられている。本陣や石仏等、往時の状況が良好に残されている。

○選定箇所が追加された「歴史の道」

松本・千国街道及び東回り古道

選定箇所：○松本・千国街道

角間池下～大網峠～横川吊り橋～大網宿、大網にかい、葛葉峠、猫鼻～湯原～天神道～塩坂～島、沢入、石坂～池原～下里瀬、下里瀬～虫尾、虫尾～和平～雨中、三夜坂、千国宿横水、親坂～沓掛（小谷村）、落倉～切久保 おかるの穴、切久保～新田（観音原付近）、佐野坂（白馬村）、佐野坂～エビスマ原、青木～中網、西海ノ口（大町市）、養老坂（松本市）

○東回り古道

戸土～角間池～粟峠～横川、鳥越峠越え、長者平～大峠～地藏峠入口、深原～埋橋～中谷、長崎～大峯～土谷（小谷村）

概要：越後の糸魚川と信濃の松本を結ぶ街道で、日本海側からは海産物が、信濃側からは農作物が運ばれた。特に「塩の道」として古くから利用され、戦国時代には「敵に塩を送る」の故事を生んだ重要な道であった。東回り古道は古代の官道の峠を意味する「三坂峠」などがあり、畿内から北陸道を経由し信濃へ入ってくる重要な道で、近世以降は主街道の迂回路として大きな役割を果たした。



中山道－信濃路

選定箇所：笠取峠下、長久保宿、四泊一里塚跡、落合橋周辺（長和町）

概要：江戸時代の五街道の一つ。江戸日本橋から板橋、大宮、高崎を経て、軽井沢、下諏訪、馬籠、加納、守山などを通して、草津で東海道の合流する。笠取峠の直下には旧道が残り、本陣、問屋、旅籠等の建物が点在する長久保宿も舗装道路ながら当時の道筋を保っている。

